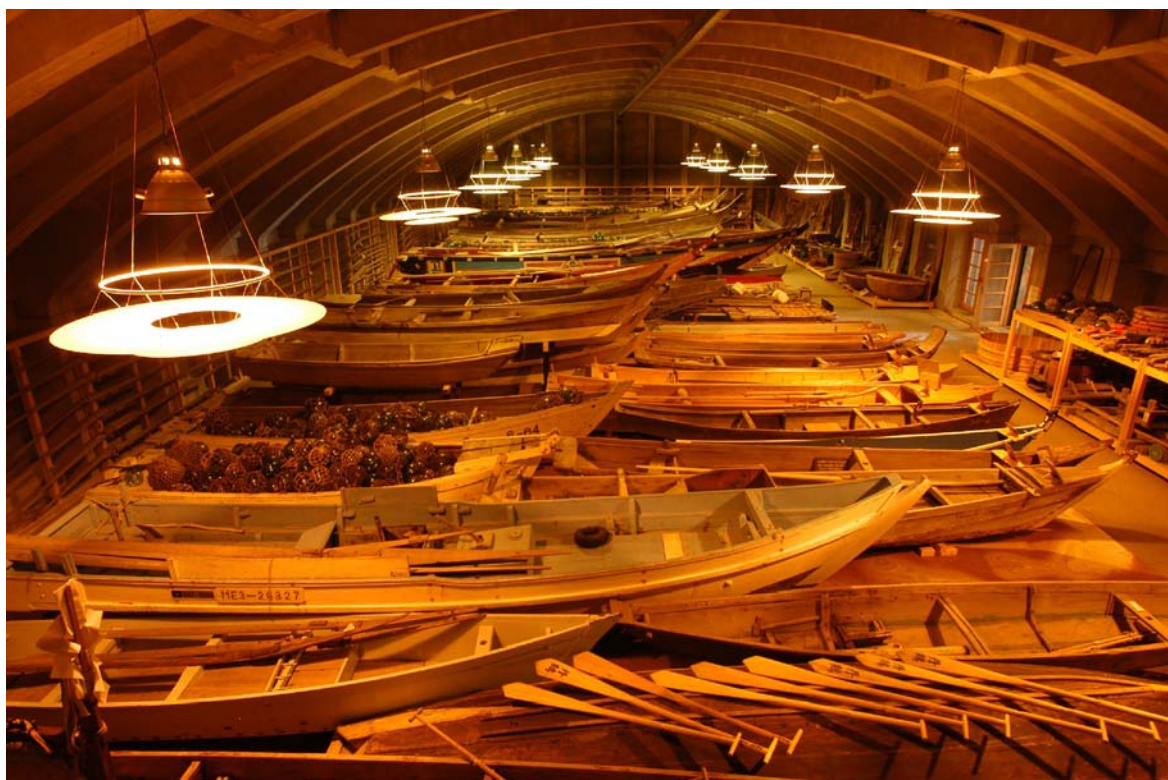



氏名又は 団体の名称	いしはら よしかた 石原 義剛	年齢	72
所属	海の博物館館長		

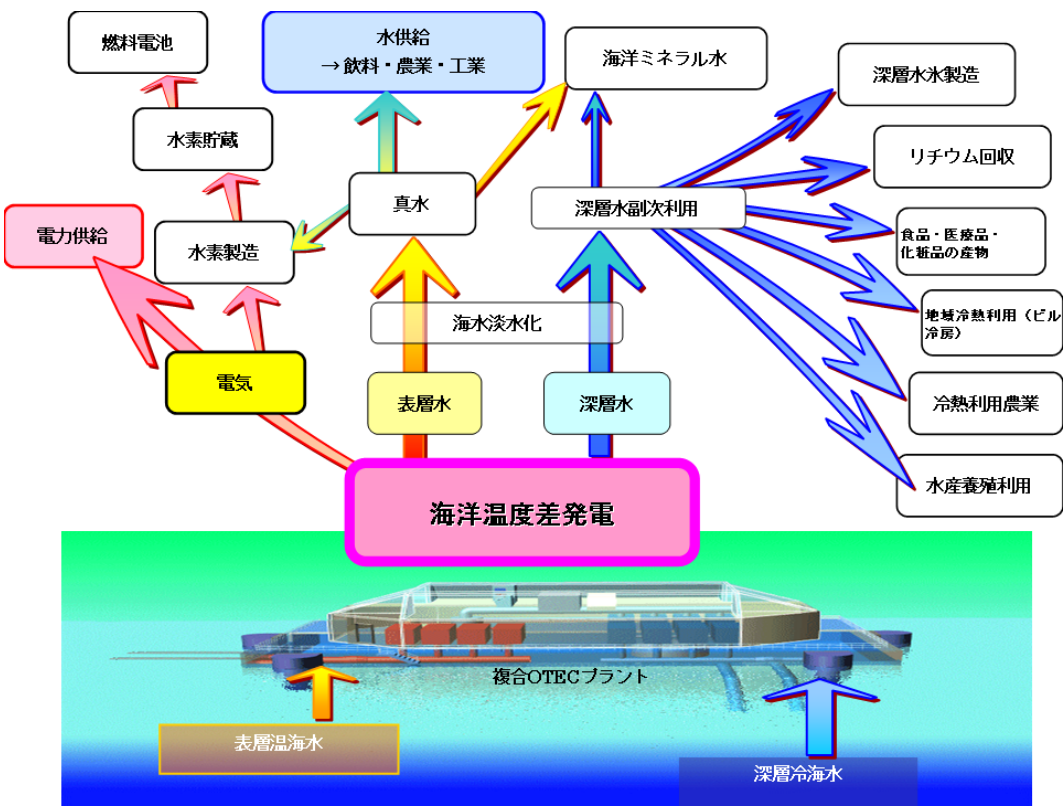
功 績 の 概 要

1. 三重県鳥羽市にある海の博物館を昭和 46 年から二代にわたり、他からの援助無く、私財を投じて運営している。当博物館は漁業・船・海女等に関する国指定重要有形民俗文化財 6,879 点を含む、日本一の規模を誇る約 58,000 点の民俗資料を通して、「海」と「人間」との深い関わりを伝えている。また、海離れが進んでいる中で、一般市民に対して実際に体験できるメニュー（海藻おしばづくり、櫓こぎ等）を取り入れて海とのふれあいの場を提供している。
2. 博物館の展示に留まらず、講演活動やフォーラムの開催も積極的に行っており、最近では、全国のみならず韓国からも海女さんが参加した「海女フォーラム」（平成 21 年鳥羽市・財団法人自治総合センター主催）を初めて開催し、海の魅力について積極的にアピールする等、海洋に関する普及活動を行っている。
3. 早くから海を守る SOS（Save Our Sea）運動を主宰し、海にゴミを捨てない運動の一環として、海辺のゴミの実情周知のため全国に漂着物アートの制作を呼びかけ作品展を開催する等、海の環境問題にも力を入れている。





日本全国から集めた小型木造船

氏名又は 団体の名称	しずおかけんりつやいづすいさんこうとうがっこう 静岡県立焼津水産高等学校	年齢	—
所 属	静岡県		
功 績 の 概 要			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 永年にわたり漁業および水産加工分野を中心に水産教育を推進し、その間多くの水産関連人材を輩出。 2. カツオや金目鯛の魚醤油の製造を通じ、地域活性化商品の開発に貢献。 3. 実習船「やいづ」は海況データを海上保安庁に提供することで海洋速報の作成に協力し、JASREP（日本船位通報制度）参加船舶としても度々優秀・優良通報船の表彰を受賞。 4. また、同船はアルゴフロートの投入・回収協力を通じ、国際プロジェクトであるアルゴ計画へも貢献。 5. 81年前に焼津水産高等学校の前身で考案された「マグロの油漬け缶詰（ツナ缶）」を、現在でも生徒が製造し、伝統製法を受け継いでいる。 			
			
カツオの一本釣りの実習風景			

氏名又は団体の名称	うえはら はるお 上原 春男	年齢	70
所属	元佐賀大学長		
功 績 の 概 要			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 長年にわたり「海洋温度差発電」についての研究に従事、今までにない高効率なシステム「ウエハラサイクル」を発明。 2. 海洋温度差発電で利用した後の温海水と冷海水についても応用を検討し、少ない温度差を活用した海水の淡水化プロセスについても研究。 3. 海洋温度差発電で発生した電力と海水から得られた淡水から水素を製造し、石油代替の燃料として利用することについても早くから取り組んだ。 4. 2004 年国連に招聴され、ニューヨーク国連本部における「第 12 回持続可能な開発委員会」で、海洋温度差発電についての講演を行うなど、長年に渡り技術普及・啓蒙活動に従事した。 5. 現在、石油精製プラントの排熱を利用した約 4000KW の温度差発電実証プラントが稼働しており、実用化に向けて実績を積み上げている。 			
 <p>The diagram illustrates the 'Uehara Cycle' concept. At the base is a '複合OTECプラント' (Composite OTEC Plant) which takes in '表層温海水' (Surface Warm Seawater) and '深層冷海水' (Deep Cold Seawater). The plant generates '海洋温度差発電' (Ocean Temperature Difference Power Generation). This power is used for '電気' (Electricity), which then goes to '水素製造' (Hydrogen Production) and '電力供給' (Power Supply). The '水素製造' process also produces '真水' (Pure Water). The '真水' is used for '水素貯蔵' (Hydrogen Storage), '水供給' (Water Supply for drinking, agriculture, and industry), and '海水淡水化' (Seawater Desalination). The '海水淡水化' process produces '真水' and '深層水副次利用' (Deep Water Secondary Use). The '深層水副次利用' is used for '海洋ミネラル水' (Ocean Mineral Water), '深層水氷製造' (Deep Water Ice Production), 'リチウム回収' (Lithium Recovery), '食品・医薬品・化粧品のプロダクト' (Food, Pharmaceuticals, Cosmetics Products), '地層冷熱利用(ビル冷房)' (Geothermal Cooling for Building Air Conditioning), '冷熱利用農業' (Cooling for Agriculture), and '水産養殖利用' (Aquaculture Use).</p> <p style="text-align: center;">「ウエハラサイクル」の概念図</p>			

氏名又は 団体の名称	いしだ はじめ 石田 啓	年齢	63
所 属	金沢大学理工研究域環境デザイン学系教授		
功 績 の 概 要			
<p>1. 渚ドライブウェイを持つ石川県の千里浜の保全や、平成 20 年の「寄り回り波災害」において軽減効果を発揮した富山湾の新型有脚式離岸堤の建設指導を行うと共に、日本三大松原の一つである福井県の「気比の松原」の優れた景観を損なうことなく養浜を成功させて観光客の増加に寄与する等、30 年以上に亘り、海岸工学や流体力学の学術知見を基に、北陸沿岸全体の海岸や港湾の計画・保全に努め、種々の課題解決を図った。</p> <p>2. 志賀原発の 100 トン消波ブロックの製造、敦賀原発の珊瑚礁の回避、島根原発のエアバブルカーテン※を用いた汚濁水遮断工法による問題解決等、各原発の海工事に関して海岸工学的見地から種々の指導を行った。 ※エアバブルカーテン：海底に配置した多孔給気管から空気泡を噴出させ、エアーカーテンを形成</p> <p>3. 高波浪時での重油回収が困難であった白山丸の油回収機「シクロネ」の改善を図り、回収効率を画期的に向上させると共に、携帯用高粘度重油回収機を開発・製品化し、また重油漂着海岸に生息する数種類の重油分解細菌の発見や、更には、海水を含んで固化（エマルジョン化）した重油を元の重油と海水に分離するエコ薬品の開発を行う等、環境保全にも努める。</p>			
			
<p>日本三大松原の一つである “気比の松原”の養浜</p>		<p>エアバブルカーテンによる船舶航行 可能型の汚濁水遮断工法の開発 (島根原発において成功)</p>	

氏名又は 団体の名称	たかはし こうぞう 高橋 孝三	年齢	62
所 属	九州大学大学院教授		
功 績 の 概 要			
<p>1. 北太平洋亜寒帯・ベーリング海域など、地球温暖化について理解を深める上で重要な寒冷域における炭素循環の解明に貢献。海洋による二酸化炭素の吸収・放出、生物による炭素の固定レベル等の時間変化を測定した。</p> <p>2. 厳しい気候環境のため、過去に行われなかった海氷域での海底の掘削調査の実施（2004年）に大きく貢献。2009年のベーリング海での深海掘削調査では、国際プロジェクトの共同代表として調査全体を取りまとめた。</p> <p>3. これら研究により、気候変動の仕組みを解明する上で重要な海氷の発達史の解明に貢献。5600万年前の温暖な時代から4400万年前まで、徐々に寒冷化した北極海の様子や、300万年以降のベーリング海の海氷の発達史を明らかにした。</p> <p>4. これらの研究の過程で、プランクトンなどの微化石のうち、計36種が新種であることが判明した。</p>			
			
<p>スウェーデンの砕氷研究船オーデン号に乗船し極点付近で深海掘削を終え、北極点に立ち寄った様子。中央左側が高橋氏。</p>			

氏名又は 団体の名称	きんきだいがくすいさんけんきゅうしょ 近畿大学水産研究所	年齢	—
所 属	学校法人近畿大学		
功 績 の 概 要			
<p>1. 近畿大学水産研究所は、人工孵化・飼育したクロマグロを親魚まで育て、その親魚から再び受精卵を得て人工孵化・飼育するいわゆる「完全養殖」を2002年に世界で初めて達成した。これまでのところ、クロマグロの完全養殖及びミナミマグロの種苗生産を達成した機関は、世界でも近畿大学水産研究所のみである。</p> <p>2. その後も生残率の向上など産業化を目指した研究を続けた結果、2007年には完全養殖クロマグロ幼魚の養殖用種苗として1,500尾を出荷し、2009年にはその生産尾数が約4万尾までに拡大した。</p> <p>3. クロマグロやミナミマグロの資源減少は、本年3月のワシントン条約締約国会議において大西洋クロマグロの商業的国際取引の禁止が議論がされる等、国際問題となっている。このような中、養殖産業において実用可能なレベルまで技術を進展させ、資源減少に対する有効な解決策を提示した。</p>			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-bottom: 10px;"> <p>写真下: 氷の中で出荷を待つ完全養殖クロマグロ 写真右: 近大水産研究所のいけすからつり上げられる完全養殖クロマグロ (資料: 近畿大学)</p> </div>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>			

氏名又は 団体の名称	なかむら つねお 中村 庸夫	年齢	60
所 属	海洋写真家		
功 績 の 概 要			
<p>1. 海洋写真家の第一人者。30年以上の間、毎年半年程度を海外での取材に費やし、北極から南極まで、地球七つの海を旅しながら海洋や船舶の写真を撮り続ける。諸外国においては、撮影した帆船や客船の写真を通じ日本の海洋文化を紹介するとともに、世界各国の船を日本においても紹介する等、双方の海事思想の普及に寄与した。世界各地で精力的に撮影した写真は写真展や、100タイトル以上の写真集等で発表され、広く国民一般に海へのロマンと憧れを感じさせるものである。</p> <p>2. クジラやイルカ等の海洋生物や海の食材にも関心が深くこれらの著作物も多く発表し、海の多面的な角度からも一般国民へアプローチしている。</p>			
		<p>10月末のマイナス35度の南極大陸、ウェッデル海のコウテイペンギンの繁殖地にて</p>	
<p>中村氏の作品 (大阪港に停泊中の外航クルーズ船)</p>			